

氏 名(本 籍) シハーブ・ファールス (エジプト)

学 位 の 種 類 博 士 (教 育 学)

学 位 記 番 号 博 乙 第 961 号

学位授与年月日 平成 6 年 3 月 25 日

学位授与の要件 学位規則第 5 条第 2 項該当

審 査 研 究 科 教 育 学 研 究 科

学 位 論 文 題 目 明治初期初等教育の地域的展開
——設立方式をめぐって——

主 査 筑波大学教授 斎 藤 太 郎

副 査 筑波大学教授 博士(教育学) 山 内 芳 文

副 査 筑波大学教授 中 野 善 達

副 査 筑波大学教授 教育学博士 成 田 十次郎

論 文 の 要 旨

本論文は、日本における近代学校の設立過程において果たした民衆の役割を明らかにすることを課題としている。

日本の近代教育制度の形成過程において、政府の果たした役割は確かに大きく、それ故中央政府の政策面から、日本近代学校教育の創設過程を考察した研究も数多く発表されているといえる。しかし、著者によれば、そこには、官公の果たした役割を重視しすぎる傾向が認められ、民衆の示した積極的な対応に目をもっと向けることが必要である。「学制」に示された政府の小学校設立政策は、府県を通して具体的に実施されたが、それを受けた民衆の側でも、地域の教育的伝統や文化的特性によって、多様な対応を示したのであった。つまり、近代学校の設立過程は、政府が近代教育制度を確立する政策的過程、上からの政策の浸透過程であるとともに、民衆が政府の教育政策に対応し、自らの教育要求を国の政策組み込んでいった過程でもある、と著者はいう。本論文は、近代小学校の設立の過程を、両者の間に起きた協調や対立にも充分目を向けて、考察しようとしたものである。

考察、論述にあたっては、次のような視点が採られている。

第一に、民衆の側からの教育要求が、学校の設立過程において、いかに具体化されたかという点を重視すること。より具体的には、設立に携わった主体と、実際に経費を負担した者に焦点をあてて検討する。

第二に、近代公教育の実施に際して、特に歴史的背景となる地域の伝統的な教育の独自性に注目し、それが近代公教育の確立過程の中で及ぼした影響に注目する。

第三に、第一、第二を踏まえて、小学校の設立方式の類型を設定し、全国的な初等教育確立の筋道

を明らかにするための作業仮説として提示する。

本論文の構成は、次のようになっている。

序論

第一章 学区の設定と学校設立方式に関する諸類型

第一節 「学制」の成立

第二節 小学区の設定と小学校設立の実態

第三節 小学校の設立方式に関する諸類型

第二章 府県主導学校型

第一節 小学校の設立政策 —— 対象的な旧長野県と筑摩県の政策 ——

第二節 学校設立行政を推進した学区取締

第三節 松本開学校の設立

第三章 郷学校型

第一節 郷学校を重視した設立政策

第二節 一般行政に依存した学校設立行政

第三節 稲武小学校の設立

第四節 座光寺小学校の設立

第四章 私学型

第一節 東京府の小学校設立政策

第二節 私立小学校を推進した学区取締

第三節 瑞光小学校の設立過程

結論 近代初等教育を支えた民衆と近代小学校の設立の三類型

まず第一章においては、「学制」実施における学区設定の方式が考察されている。学区の設定の基準は、各府県の社会的・歴史的諸条件によって、必ずしも同一ではなかったということ、そして、この学区設定の多様性が、そのまま近代学校の設立方式の多様性とも深く関連していることが論じられる。次いで、全国的な見地から各府県の小学校の設立方式が検討され、地域の歴史的・社会的な条件によって多様な設立方式が分類され、大きく三つの類型にまとめられている。

1. 府県主導学校型・・・歴史的に藩学や県学の遺産を継承し、その設立に際しては府県がモデル校として特に主導した学校である。
2. 郷学校型・・・「学制」以前の郷学校から発展したもので、学校設立経費は地域の民衆で負担し、地域の指導者が学校設立を主導した。
3. 私学型・・・「学制」以前の寺子屋・私塾を基礎として、私立小学校を設置し、それをもって公立小学校の代用としながら、地方において、公立小学校を漸次育成していくもの、私立小学校の設立経費は主として個人に依存した。

第二章においては、府県主導学校型の代表例として松本の開智学校の設立過程がとりあげられている。同校は、もともと藩学を母体とし、「学制」発布後は、県が主導権をもって、「学制」が意図した

近代学校のモデルを示すべく設立を進めたものである。学校の規模、施設、内容は、他の村立小学校とは比較にならぬ程高く、英学をふくむ欧米風の近代教科からなる過程が編成されていた。各府県でも、開智学校のような歴史的背景と設立意図をもった学校が、モデルスクールとして設置された。

第三章では、郷学校型の例として、愛知県豊橋の稲武小学校、長野県伊那郡の座光寺小学校の設立について、検討されている。

稲武小学校は、「学制」発布以前に明月清風校という郷学校として誕生している。地域の名望家である古橋家が中心になって作られた。同家の暉児は教育を通して村民に殖産のための知識を得させようと務め、その子義真も村民の実態に即した農業技術の教授のために尽力した。こうした実践が地域性に根ざした学校の教育内容に反映し、他の小学校には見られない農学、物産といった科目をふくむものとなっていた。また、明治新政府が打ち出した欧米風の近代的な教科を主とするよりも、「道義」を優先させていた。しかし、その後公立小学校になると、こうした特徴は薄れ、近代的な算術が重視されるようになる。

第四章では、私学型として、東京に多く見られた、寺子屋・私塾等から転用された私立小学校が長く続き、その後に公立小学校が育ってくる事例として、南千住の瑞光小学校の成立事情について考察されている。

「学制」発布当時、千住町には公立千寿学校が設立されていたが、その後、町制の改革と進学者の増加により、学校増設に迫られ、町内にあった私塾・家塾が私立小学校になってこれに対応したのである。やがて町内有志の醸金による公立小学校設立の働きが出て、明治20年に瑞光小学校開校を見たのである。

以上、具体的な事例によって示された小学校設立の三つの類型は、各地で刊行された地方教育史、先行する教育史研究書・論文の検討に基づき設定されたもので、日本における近代小学校の設立過程の総合的な把握の成果として示されたものであると同時に、今後の研究によって、その有効性・妥当性がなお検証されていくべき作業仮説として提起されているのである。

著者は、結論において、日本の近代小学校の成立が、近代以前の民衆の生活に密着し、多様性をもった地域社会に根ざしたものであることを改めて確認し、これは、今日の発展途上国で初等教育政策を推進するうえで教訓として認識されねばならないとしている。

審 査 の 要 旨

明治初期における小学校の設立過程についての研究は、日本教育史において最も活発な分野の一つであり、それだけに中央の政策過程から地域の実態の事例的な研究まで数多くの研究の蓄積がある。著者の研究は、学校設立にあたっての地域民衆の積極的な役割に注目して、これに関する原資料に基づく事例研究の成果を加えるとともに、諸成果を総合し包括的な視野のもとで研究の進展を図るべく、類型的把握を提唱、具体的に三つの類型を提示した。この点における著者の試みは、研究の現状からいって大いに評価される。

外国人留学生として、著者は、短時日のうちに日本語、日本史、教育史においてその力量を高め、日本人研究者に伍して、古文書調査等、専門的活動に従事してきたが、これも研究者としての資質を裏書きするものといえよう。

もちろん、年々数を増している文献を充分に利用することは容易ではなく、著者が問題とした地域民衆の役割に関する研究についても、参照されるべきものはすくなくない。また、提示された三つの類型についても、設定手続き、内容等、なお吟味すべきところがある。しかし、こうした問題点は、今後の研究への期待とすべきであると思われる。

本論文が著者の母国エジプトで刊行されれば、同国の日本・日本教育の認識を高めるうえで寄与するところは大であらう。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。